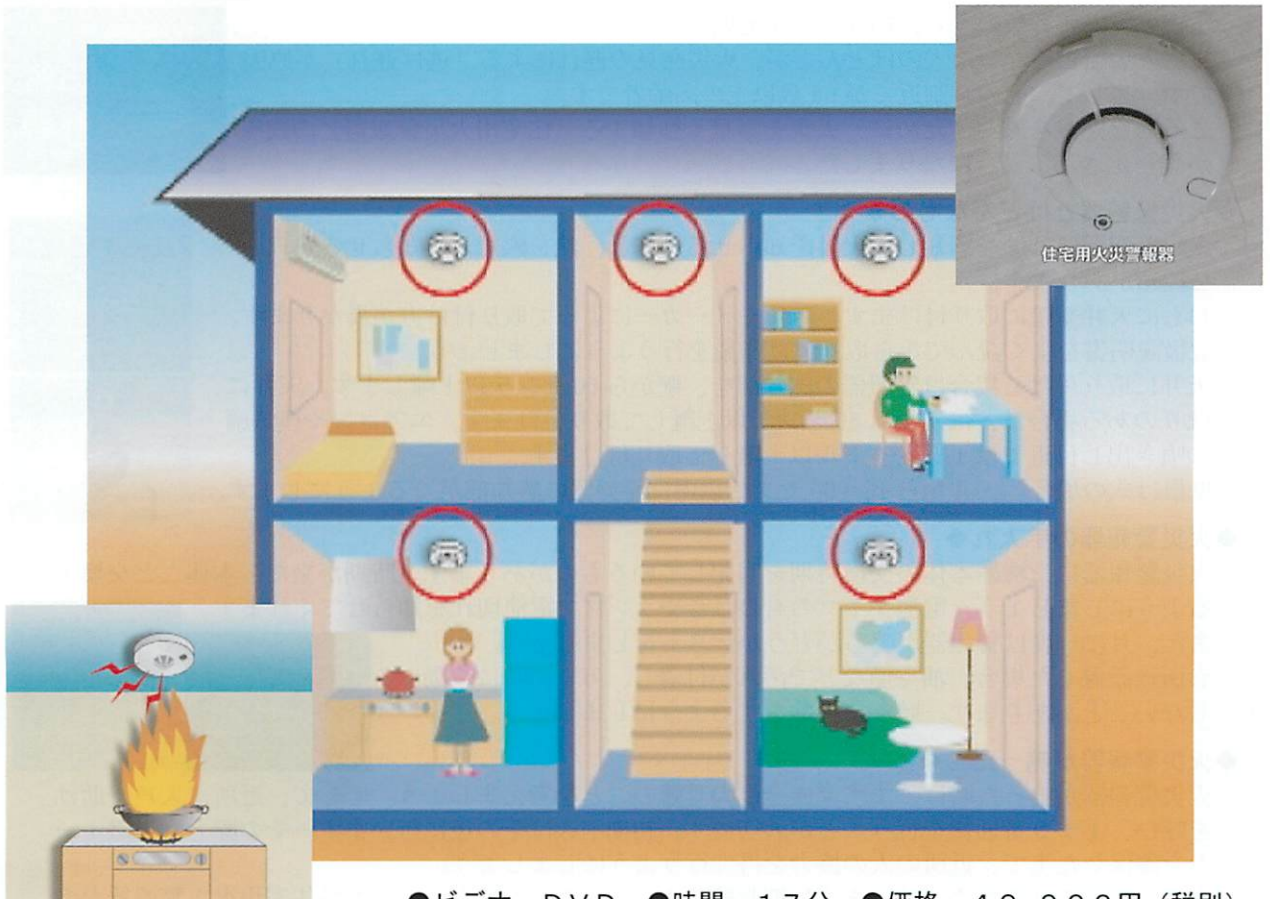
監修：東京大学大学院工学系研究科
工学博士　関沢　愛 教授

火災警報器に学ぶ

－住宅火災から命を守る－

平成１６年に消防法が改正
住宅用火災警報器の設置が義務付けられました
既存の住宅の場合は各市町村の火災予防条例に準じます

住宅用火災警報器

●ビデオ・ＤＶＤ　●時間：１７分　●価格：４０，０００円（税別）
URL:http://www.kyohai.co.jp

株式会社　教　配

本　　社　〒104-0061 東京都中央区銀座６－６－７　朝日ビル ５階　TEL(03)3571-9351(代)　FAX(03)3574-1376
関西支社　〒550-0005 大阪市西区西本町 1-13-38　西本町新興産ビル　TEL(06)6536-4693　FAX(06)6536-4693

火災警報器に学ぶ　－住宅火災から命を守る－（17分）

監修：東京大学大学院工学系研究科
工学博士　関沢　愛 教授

◆◆◆ 平成16年消防法の改正 ◆◆◆

消防法の改正にともない、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。新築の場合は寝室と、寝室が２階にある場合は階段にも火災警報器の設置が必要になりました。既存の住宅の場合は各市町村の火災予防条例によって、設置が義務付けされる時期が決まります。

火災の中で最も多いのが住宅火災です。火災が発生した時に大切な事は、早期発見・早期避難です。
そのため火災をいち早く知らせる住宅用火災警報器の普及が急がれています。
この作品では火災警報器の必要性・種類・設置の仕方など、詳しく解説しています。

◆火災警報器が救った命◆

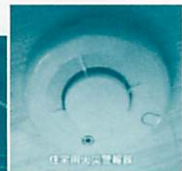
火災警報器のおかげで、命を救われた例が数多く報告されています。
お年寄りを含む一家６人が就寝中でした。深夜に一階の仏壇のある部屋から出火。一階で寝ていた93歳の女性が軽い火傷をしましたが、火災警報器のおかげで一家６人の命が救われました。

建物火災の死者数のうち、約９割が住宅火災です。
住宅火災で亡くなった人のほとんどが、火災発見の遅れによる「逃げ遅れ」が原因です。そして、その６割近くが65歳以上の高齢者です。
こうした悲劇を減らすために、火災を素早く察知する「住宅用火災警報器」の設置が義務化されるようになりました。

◆火災警報器とはどんなもの◆

火災警報器には煙を感知して火災を知らせる煙式と、熱を感知して知らせる熱式の２種類があります。
おもに天井や壁に取り付けます。種類やメーカーによって取り付け方が異なります。取扱説明書をよく読んでから取り付け作業を行うようにしましょう。
天井に取り付ける場合は警報器の感知部を、壁から60センチ以上離します。天井にはりのある場合は、はりから60センチ以上離して取り付けます。エアコンや換気扇の噴き出し付近では1.5メートル以上離して取り付けます。
壁掛け式の場合、天井から15～60センチ以内に警報器の感知部がくるようにします。

◆火災警報器の手入れ◆

火災警報器には機器本体の交換時期を明記しているものがあります。時期が来たら本体ごと交換するようにしましょう。電池タイプのものは音やランプで電池切れを知らせてくれます。
また、月に一度は警報器が鳴るかどうかテストをしましょう。
台所に設置した場合、油や煙などで汚れが付着し、万一の時に作動しないことがあります。時々、掃除をするようにしましょう。

◆火災警報器が鳴ったら◆

火災警報器が鳴った時は、まず家族全員の避難のことを考えましょう。そして、近所に大声で助けを呼び、１１９番通報を行うことが大切です。初期消火はその後に行います。その際も、退避ルートを確保した上で、近所の人の協力を得て行うようにしましょう。
火災から命を守るためには、まず早期避難です。そのきっかけをつくるのが住宅用火災警報器なのです。

企画・制作・著作　株式会社　教配